

日本思春期学会学術委員会報告

子宮頸がん(HPV)ワクチン接種を促進させるための検討 (福岡大学でのアンケート調査の結果を基に)

【研究概要】

わが国では年間約 1 万人が子宮頸がん罹患し、約 2,900 人が亡くなっています。予防には子宮頸がん(HPV)ワクチン接種が有効ですが、ワクチン接種後の有害事象が数多く報告され、2013 年 6 月から約 9 年間、積極的接種が差し控えられました。

2022 年 4 月 1 日から積極的接種が再開され、接種が差し控えられた期間に接種の機会を逃した女性に対して、公費でのキャッチアップ接種が開始となっていますが、定期接種、キャッチアップ接種ともに接種率が非常に低い状況が続いています。現在、厚生労働省がリーフレットの配布やコマーシャル動画の放映による啓発を行っていますが、接種の促進に繋がっていないのが現状です。

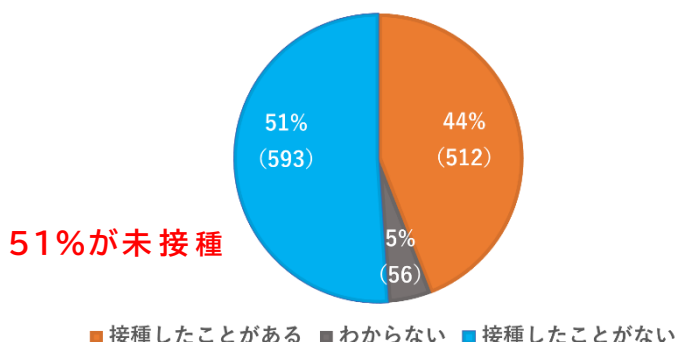
本研究の目的は、HPV 感染および HPV ワクチンの認知度、接種状況を調査し、HPV ワクチン接種の促進へと繋げていくことです。キャッチアップ接種は 2025 年 3 月で終了となるため、迅速な対応が求められています。

【接種状況】

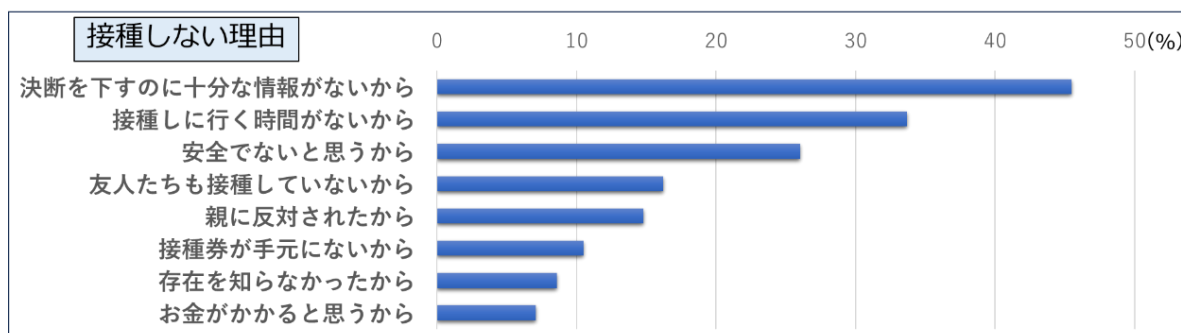
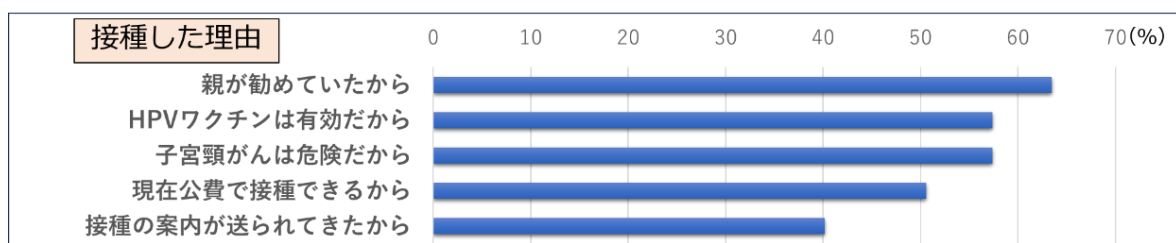
【研究成果】

概要

- 福岡大学在学学生 19,376 人に対して WEB アンケート調査を実施
- 回答が得られた女性 1,161 人における結果を解析
- 調査時期
2023 年 11 月 27 日から 12 月 22 日



【接種した理由/しない理由】



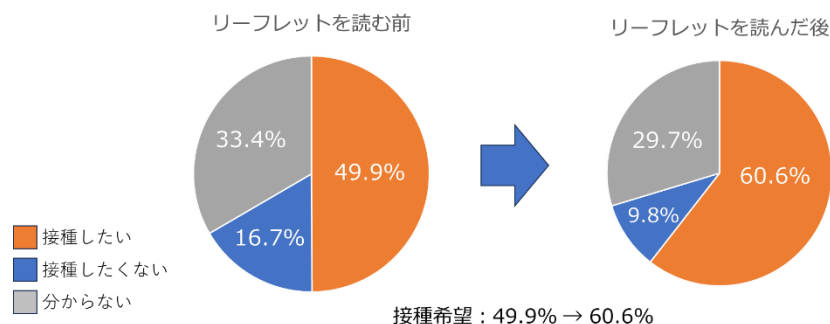
【情報源別の接種状況】



HPV ワクチンの情報源について、「家族」、「医師」、「厚生労働省作成のリーフレット」を選択した群では、統計学的に有意に接種率が高く、「友人・知人」、「SNS」、「どこからも情報を得ていない」を選択した群では有意に接種率が低い結果でした。

【リーフレット参照による接種希望の変化】

対象：HPVワクチンを接種したことがない女性（593人）



厚生労働省作成のリーフレット参照前後での HPV ワクチンの接種希望は、「接種したい」選択群は 296 人（49.9%）から 359 人（60.6%）に上昇しました。

自由記載（一部抜粋）

・少しは安全であることを知ることができた	・副作用があるのが不安
・副作用など不安はありましたが結果的に何ともなかったので3回打って良かったと思う	・注射が痛いと聞くので接種を迷う
・リーフレットを読んで接種してみようという気持ちになった	・認知度が低い
・副作用は不安だが、それ以上に子宮頸がんを予防できる方が重要だ	・医療に携わらない人からしたら、安全性と有効性についての認知がまだまだ足りない気がするので、もっとアピールすべき
・キャッチアップ接種のおかげでワクチンを打つことができた	・周りが反対している